

防災を考える市民の会
機 関 紙
第 6 9 号

は ん しょう
鐘 鉦

2008 年 5 月 3 0 日
連絡先 宇治市宇治琵琶 45-2
宇治市職員労働組合気付
電話 22-5653、fax23-4960

6 月の **流域委員会** の取り組みにご参加ください。

流域委員会 天ヶ瀬ダム再開発の問題箇所で審議入り

6 月 3 日（火）流域委員会（みやこめっせ）に参加しよう

再開発どころか現行ダムでも危険性が目立ちます

淀川水系流域委員会第 7 9 回委員会が 5 月 2 7 日に開催され、今後＊ 堤防の耐震補強 ＊ 水の路 舟運 ＊ 洪水対象外力 ＊ 宇治川改修（1500m³/s） ＊ 桂川嵐山地区改修 ＊ 天ヶ瀬再開発京都府利水 ＊ 天ヶ瀬ダム、川上ダム地質などが審議されることになり、次回委員会が 6 月 3 日（火）午後 4 時半から「みやこめっせ」で開催されます。

傍聴参加をお願いします。

6 月 3 日の流域委員会では、天ヶ瀬ダム周辺の地質問題を中心に審議されることですが、右写真のようにアーチ式ダムを支える右岸側でかなりの崩落⇒が目立っています。さらにはダム本体でも亀裂、水漏れ箇所も目撃でき、再開発どころか現在のダムそのものの安全性が問われる事態になってきています。



委員会は原案に対する委員会の意見提出（現段階の意見で最終意見ではない）の審議の段階（7 5 ～ 7 8 回）から改正

河川法の精神を無視した意見が目立ち始め、河川管理者も原案の見直し提出はないと頑迷な態度を示し、委員会を軽視するような態度を露骨にしています。

ようやく私たちの願いに応じて宇治川問題で審議がされることになりました。しかし委員会で納得ゆく審議が行われるためには、地元住民として引き続き改正河川法の精神にもとづいて、宇治市民の命を守ることと宇治川の河川環境・景観の再生を河川整備計画の中に具体化させることを要求して意見を出してゆかなければならないことも変わっていません。

どしどし委員会にまた国交省近畿地方整備局に意見を送ってください。そして流域委員会（次々回は 6 月 3 0 日 1 0 時京都会館）にも参加してください。

また宇治市長等に申し入れた 1 2 項目の問題点に対する回答及び懇談会について現時点で日程が決まっていますが、決まり次第連絡させていただきますのでよろしくお願いします。

防災を考える市民の会 4 月 29 日 宮本流域委委員長、村上委員とともに天ヶ瀬ダム周辺、塔の島、槇島地域の調査見学会を実施



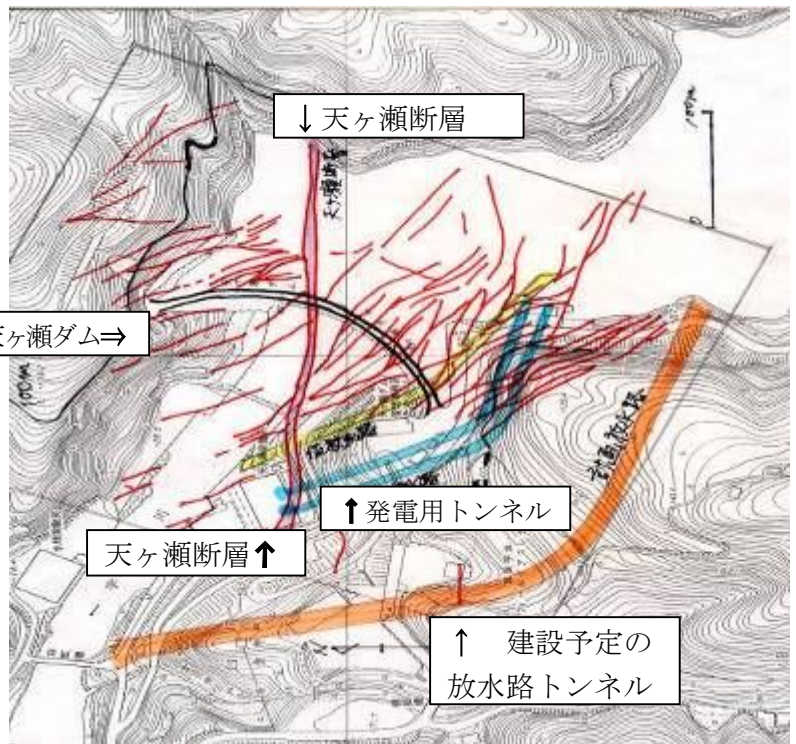
防災を考える市民の会（代表志岐常正・京大名誉教授）は、4 月 5 日に続いて 29 日に大変多忙な日程をさいて宮本博司流域委員会委員長と村上哲生委員（名古屋女子大学教授）のご出席をいただいて天ヶ瀬ダム周辺や塔の島付近、槇島地域の調査見学会を行いました。

調査見学会には、報道関係者や松尾孝、前窪府議、多数の宇治市議会議員ら 36 名が参加していただき、午後の槇島地域の調査には、槇島東地区防災対策会議の会

長の辻昌美さん（上の写真は、槇島堤防上、元桜池付近で説明をさせていただく辻さんです）が大阪での重要な催しを中断して参加していただき、槇島地域での 1500 トン毎秒の放流計画がいかに危険であるかを実感した調査見学会となりました。

当日は、最初にダム周辺で「会」の紺谷吉弘事務局長が自ら地質図に整理された資料（右の図は前回報告されたものをより詳細に整理された 3 点のうちの 1 点です）で、天ヶ瀬ダム再開発計画の問題点と天ヶ瀬断層の実態について報告しました。

調査ではダムを東西に横切る断層が大変もろいこと。ダム右岸側壁に多数の亀裂が生じていること。ダム周辺で多数の崩落箇所が現存していること。600 トン/秒を増量するために建設を予定している出口 26m の巨大放水



路トンネルが異様で景観環境破壊を招くこと。またこの間の放流で宇治川兩岸の全域で護岸が真っ白に変色（次ページ下の写真 つり橋付近）していること。など未解決の問題点の多さを参加者に再認識していただく取り組みとなりました。

宇治川 1500 トン毎秒の放流は、治水・防災上危険でむちゃな計画を実感

もろいダム周辺の断層 整備局の詳細な調査資料の公開と検証が重要



天ヶ瀬ダム右岸、側壁の亀裂について説明する紺谷「会」事務局長

午後は、脆弱と言われる宇治川槇島堤防に張り付いている槇島地域に居住しておられる辻さんの案内で危険箇所を見て回りました。

特に吹前地区では、「ここらへんは川砂だけで大水が出た時は、どこからでも水があふれてくる。一番脆弱で桜池に継ぐ大きな池があったところ。地元出身の中西伊之助が書いた「農夫喜兵衛の死」の中で、弟が水死した場面に出てくる。」ことも紹介していただきました。

また堤防も低いので（向島付近はもっと低い）破堤だけでなくオーバーフローも心配。宇治川の浸透水は止めることは不可能。スーパー堤防で淀川までつくれば可能かも知れないが 100 年以上かかるし予算上無理。こんな中で 1200 トンまでなら体験上可能と思うが、1500 トン流せば何箇所か切れてしまうむちゃくちゃな計画と思う。止めて欲しい。万が一やられたら防ぎようがないので今は避難訓練ばかりやっている。とのことでした。

4月29日の宮本博司委員長らとともに実施した現地見学会では、ダム側壁に生じている亀裂や周辺の崩落現場などからみてダム本体が東西に横切る断層の上に造られていることからダムそのものの危険性について危惧されることから、整備局の詳細な調査資料の公開と検証が必要との認識を新たにしました。



槇島藺場付近 右上は宇治川堤防 「1500 トン放流は危険でむちゃな計画」を実感



槇島吹前付近 中西伊之助の小説にも出てくる多くの池のあったところ、堤防も低く危険と辻さん（小説の問い合わせは事務局までご連絡ください。）

宇治川はやっぱり怖い 宇治川の審議は行う・・・宮本博司委員長

宇治川の白くなる現象は何かが起こっている・・・村上哲生委員



調査見学の後、宇治市産業会館で流域委員と参加者とで懇談会（左写真）を行いました。

宮本博司委員長は、「地元の人から詳しい熱い思いを説明していただいたことに感謝したい。『宇治川はやっぱり怖い』が感想。流域委員会では宇治川問題で審議ができていないが必ずやる。地元の盛り上がりが大切」

村上哲生委員も「非常に重要な取り組みと思って参加させてもらった。石が白くなるとの現

象（右の写真 つり橋付近）は、珪藻類の白化現象で有害なものではないが、何かが起こっている。宇治川の変化、生き物の変化がどういう原因で起こったか知識を総動員して原因の究明を考えたい。水質調査などは地元でも可能であり協力したい。」との貴重はご意見もいただきました。



宇治川改修問題、天ヶ瀬ダム再開発の問題点と今後の対応がわかり、確信がもてる国土研宇治川調査報告集を普及しています。ご協力をおねがいします。

①・国土研調査団による宇治川問題の報告書概要版（2008年2月発行）

- 目次
- 1、宇治川河道の変遷と地形・地質の特徴
 - 2、天ヶ瀬ダム再開発事業の概要と問題
 - 3、宇治川の景観・環境を破壊する $1500\text{m}^3/\text{s}$ 改修
 - 4、破堤の危険に晒される宇治川堤防と天ヶ瀬 $1500\text{m}^3/\text{s}$ 放流
 - 5、淀川水系河川整備基本方針における宇治川計画流量の考え方
 - 6、宇治川改修工事のあり方

②・国土研調査団による宇治川改修問題調査中間報告書版（2007年3月発行）

- 目次
- 1、宇治川の変遷
 - 2、宇治川の治水計画とその問題
 - 3、天ヶ瀬ダム再開発事業の問題と琵琶湖沿岸域の治水について
 - 4、塔の島地区改修計画と宇治川堤防の安全性の問題
 - 5、宇治川の河川環境問題と塔の島地区の河川改修の方法
- 5.3 塔の島地区における超過洪水対策

- ・ 08年4月29日に宮本委員長とともに実施した再開発問題箇所調査見学会資料集
- ・ 紺谷事務局長が整理編集した天ヶ瀬ダム付近の断層地質図

- ①「概要版」(2008年2月発行)及び②「調査中間報告書版」(2007年3月発行)とも「CD—R版」と「カラー刷り製本版」を用意いたしました。
いずれもカンパ500円で普及します。ご協力をお願いします。
「会」事務局及び会役員までご連絡ください。

3月14日に京都府、宇治市に申し入れた12項目の事項は下記のとおりです。

- ①「原案」に示されている宇治川 1500m³/s への増量放流計画を実施すれば、槇島地区、塔の島地区など宇治地域の危険リスクは増大します。原案修正が必要です。
- ②「原案」では、宇治川治水について戦後最大洪水における対策では 1100m³/s 放流で対応できるとしています。私どもの調査でも安全性、環境影響の大きさ等の検証から、宇治川塔の島地区の河川改修は 1200 m³/s 程度の改修で戦後最大洪水に対応することが可能であり、世界遺産と一体となった塔の島地区の河川環境への影響を小さくして保全することができると思っています。それ以上の洪水が発生する場合には、超過洪水として対策すべきことと判断しています。(詳細は国土研調査団報告書を参照してください。)
- ③天ヶ瀬ダム 1500 m³/s 放流計画は、琵琶湖の後期放流に対応するためのものであって全国の河川でも例のない2週間にも及ぶ長期間放流されるものです。再三再四指摘されている槇島堤防の脆弱性からみて非常に危険なものです。宇治川治水対策では、堤防強化こそ最優先で進める事業であると考えます。
- ④宇治川、槇島堤防については、耐震補強計画が全く盛り込まれていません。この点でも重大で、原案を修正させるべきです。
- ⑤「原案」の天ヶ瀬ダム 1500m³/s 放流の必要性は、琵琶湖沿岸の浸水被害軽減のためと言われていますが、1兆9千億円かけた琵琶湖総合開発事業で大幅に軽減されています。国交省の説明は根拠薄弱で、下流自治体が巨額の負担をしてまで実施する必要のない事業と考えます。
- ⑥天ヶ瀬ダム基礎や近傍の地質の調査結果が全く示されていません。「会」の調査では天ヶ瀬断層の存在が明確であり、ここに出口直径26mもの大口径の放水路トンネル(右イメージ写真)を掘ることは、宇治市民にとって危険性が大きすぎると考えます。
- ⑦後期放流天ヶ瀬ダム 1500m³/s の放流を前提とした施工をすれば、平水時(大洪水時以外の全ての日)の塔の島地区の景観、環境(生物、人間生活)が破壊されます。すでに前倒しで施工が行われ、景観、生態、たとえば鶺鴒の条件などがはなはだしく損なわれています。宇治市民の生業にとっても重大な問題です。



原案どおり決定されればこのことを容認することになります。原案を修正させることが必要と考えます。

- ⑧「原案」は、最近の宇治川の生態系やそれに関係する河状変動（例えば河床低下や洲の移動）についての科学的調査なしに造られています。天ヶ瀬ダムより下流に関しては、今も調査結果が何も示されていません。現状や整備案での”整備”実施後の河床物質掃流についての予測もありません。この状態では将来の設計などできるはずがないものです。
- ⑨「原案」は調査なしに出されたものが多すぎます。天ヶ瀬ダム周辺で発生する低周波音についても「模型実験を行っている」とのことでしたが、最近の説明では模型もできておらず「これから」とのことです。この状態で「原案」どおり河川”整備”を行うことは防災と環境問題の両面にわたり危険であると言えます。
- ⑩「原案」もそれが拠る「基本方針」も、水位や水量の基準点は枚方に置かれており、宇治地区の治水や環境問題などほとんど無視して造られています。

宇治川断層や、河を横断する古い川の跡の存在の問題点などを考慮して、再検証する必要があると考えます。

- ⑪天ヶ瀬ダム再開発事業の一つに、利水事業が上げられています。全てのダムで各自治体は利水計画より撤退されていますが、天ヶ瀬ダムのみ計画の変更がありません。長期的には人口が減少し府や各自治体においても水需要の増加は考えられず、再開発事業に参画するだけで利水分だけで38億円もの巨額の負担金額を府が支払うことになります。結果として府民、市民が負担することとなるもので、貴職のお考えをお示してください。
 - ⑫天ヶ瀬ダム再開発事業費は、330億円が430億円と100億円の増になると報告されています。その事業負担は、国以外では京都府（86億円）と大阪府（71億円）の負担となっています。再開発で最大の恩恵を受ける滋賀県の負担は0です。現在「淀川水系流域委員会」でも大戸川ダムと合わせて「効果は極めて限定的で、少ない」と議論されています。
- 当然のこととして府民、市民が負担することとなるもので、巨額の負担をしてまで実施すべきものではないと考えます。貴職のお考えをお示してください。

河川整備計画をめぐる動き

4月3日に続いて京都、滋賀、大阪の三府県知事が流域委員会へ説明会の

開催を要請

淀川水系流域委員会第79回委員会（H20.5.27）の審議資料で5月21日付けで大阪、京都、滋賀、の三府県知事より「淀川水系河川整備計画原案」に対する委員会意見の御説明について（依頼）の文書が流域委員会委員長あてに提出されていることが掲載されています。

これは、4月3日に開催された淀川水系流域委員会と京都、滋賀、大阪の三府県知事への説明と意見聴取会に続くものです。